

敬老の日に「火の用心」の贈り物。 【身近な防火・防災】プロジェクト ～住宅防火・防災キャンペーン～

予防課

1. 住宅火災による死者の多くは65歳以上の高齢者

住宅火災における死者（放火自殺者等を除く）は、建物火災による死者の約9割を占めており、この多くが65歳以上の高齢者となっています。高齢社会の進展とともに、ますます高齢者の住宅火災による死者の増加が懸念されています。（下図参照）

2. 高齢者を住宅火災から守るには

(1) 早く知る！

住宅火災では、就寝中に火災に気付かず逃げ遅れて死亡する事例が多く見られます。こうした「逃げ遅れ」を防止するための住宅用防災機器として、煙や熱を自動的に感知して知らせる住宅用火災警報器があります。火

災に早く気づくことは、避難、通報、初期消火といった行動が迅速にできることから、住宅用火災警報器の設置は、住宅火災による死者の低減に大きく寄与するものと考えられます。

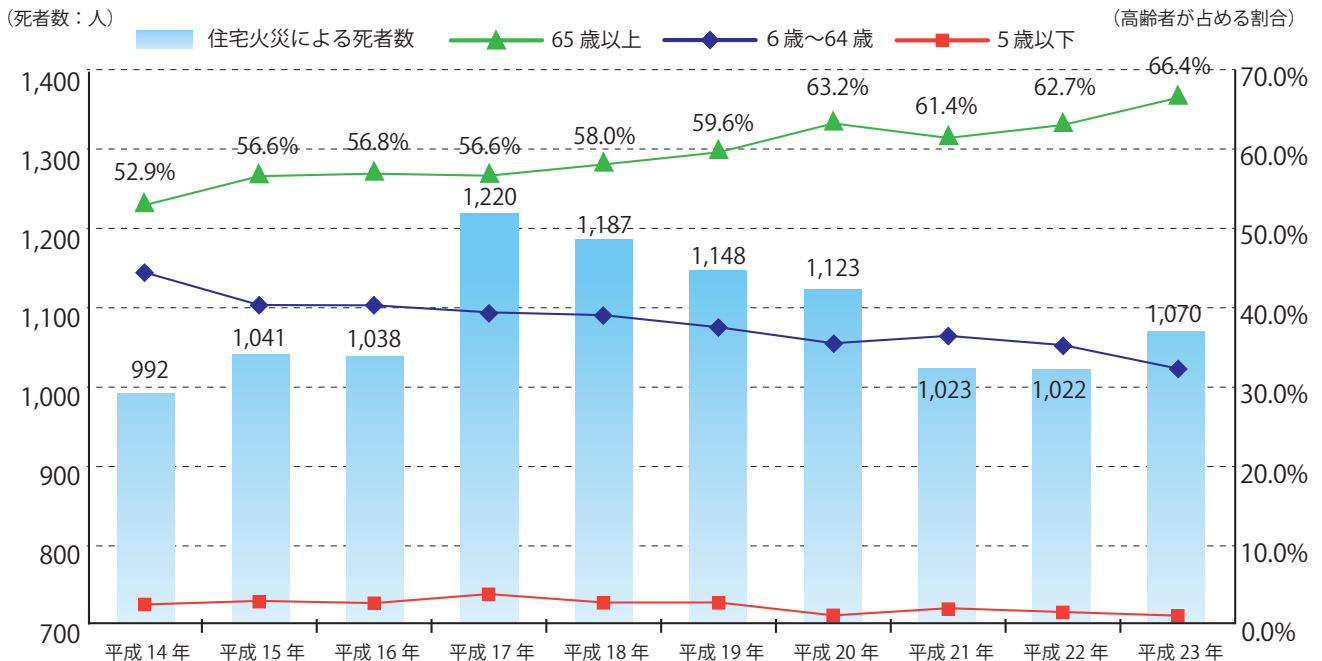
なお、住宅用火災警報器は消防法ですべての住宅に設置が義務付けられており、火災で発生する煙や熱を有効に感知できる位置に設置することが必要です。また、電池切れで万が一の時に作動しなかったということがないよう、定期的に作動確認をすることが大切です。

(2) 早く消す！

火災による被害を最小限にするために、火災を初期段階で消火する消火器は、もっとも身近な消火機器であり、より扱いやすい住宅用消火器も売られています。また、

住宅火災による死者数の推移

（平成14年～平成23年の10年間）



死者の約6割が65歳以上の高齢者 → 高齢化の進展を反映して増加傾向

女性や高齢者などでも軽くて持ち運びがしやすいエアゾール式簡易消火具もあります。

またこれらの消火機器は、いざというとき効果的に使用するため、日頃より地域の防災訓練などで実際に使用方法の訓練をしておくことが大切です。

その他、住宅用の消火機器としては、火災による熱を感じて自動的に消火する住宅用スプリンクラー設備、コンロ周りを自動で消火するコンロ用自動消火装置などがあります。これらの機器は、自動的に消火を行うことから訓練の必要もなく、高齢者のいる家庭では特に設置をお勧めします。

(3) 火を拡大させない！

住宅火災による死者の内、「逃げ遅れ」の次に多いのが「着衣着火」であり、エプロンや衣類、布団カバーなどを燃えにくくすることで、こうした危険を減らすことができます。

敬老の日に「火の用心」の贈り物。

[身近な防火・防災]プロジェクト

(住宅防火・防災キャンペーン)
消 防 庁



住宅防火・防災キャンペーンの実施内容

1. 高齢者を住宅火災から守るため、9月17日の敬老の日には、住宅用防災機器を高齢者に贈ることを全国に呼びかける「住宅防火・防災キャンペーン」を立ち上げ。(住宅用防災機器とは、住宅用火災警報器、住宅用消火器、エアゾール式簡易消火具、防災品、家具の転倒防止器具などをいう。)
2. 敬老の日には、天井にあって点検しにくい住宅用火災警報器を高齢の両親のためにお子さんが点検したり、地震に備えて家具の転倒防止器具を設置するなど、高齢の両親を災害から守る取り組みを促していく。
3. このキャンペーンについて、9月に政府広報として新聞記事などでマスコミ報道を実施予定。
4. 毎年9月15日の「老人の日」から21日まで行われている厚生労働省の「老人の日・老人週間」キャンペーンとタイアップ。

現在では燃えにくい加工処理をした防災品や難燃繊維を用いて作られた製品などがあります。

また、火災が発生した際に、急激に火が拡大することを防止するために、防災性能をもったカーテンやじゅうたんなどを使用することが効果的です。さらに車のボディカバーなどに防災品を使用することは、放火火災の防止にもつながります。

高齢者を住宅火災から守るには？



3. 9月は住宅防火・防災キャンペーン

9月17日は「敬老の日」。「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」として制定された国民の祝日です。

消防庁予防課では、昨今の住宅火災の傾向をふまえ、この「敬老の日」に住宅火災から高齢者を守るためにできることを考えていただく事を目的とした「住宅防火・防災キャンペーン」を展開します。「敬老の日」には、高齢者へ住宅用防災機器や防災品をプレゼントしたり、すでに設置されている住宅用防災機器の点検を手伝うなど、住宅の防火防災対策を兼ねた「敬老の日」にしてみたいかがでしょうか。